

新年スタート 今年もよろしくお祈いします！

1月号

昭和肥料ニュース FAX版



Vol. 017

先月号でも取り上げましたが、米の需要低下と在庫過多（地域差あり）から生産調整が必要との報道がされ、それに伴い稲作から畑作・果樹への転作奨励が行われています。しかし弊社独自の調査では大規模な転作へ舵を切るケースは非常に少なく、対応策としては①無し、現状維持②多収穫米栽培や、より低コスト生産に向かう③地域名産品目への一部転作、などが大勢を占めているように感じました（貴社周辺ではいかがですか？）

水稻、大豆、麦、果樹、野菜へ使用可能！ 収量の確保に必須！！

弊社土作り資材は、「稲作へのケイ酸補給」、「畑作への酸度調整と微量元素補給」を同時に行うことができるので、作付けの変化に関係なく、水稻と畑転作の両方に対して柔軟に対応できます。生産者様にとっても、転作する場合に土改材を選び直す手間が省けます。

☆稲作の多収、品質向上にケイ酸が多量的に必要です。

☆稲作から畑作・果樹への転換には土壌pHの矯正が絶対必要です。

（水田あとは土壌pHが低くなる一方、畑作地はpHを6~6.5にしないと根張りが不良となり生育が悪くなりやすいです。）

飼料用米などは、収量を上げないと補助金が取れず、採算への不安を抱える生産者様が多くいらっしゃいます。当然、収量確保のためには「土作り」が必要です。収量・採算を確保する土作りを行うための資材を欠かすことは出来ません。

畑転作地では、水稻向け資材以上に、土壌崩壊性の良さが大切です。崩壊性が悪いと根酸に触れても養分が溶けず作物に吸収されません。崩壊性が良いと、畑作での効果が出やすい上に水田復帰した後も養分に無駄がなく、費用対効果が高いと言えます。

最後になりしたが、2021年も引き続き弊社製品をよろしくお祈いいたします。

商品ラインナップは弊社HPを参照ください

スタッフ通信

弊社スタッフの近況やつばやきをご紹介します♪

生産部の小崎さん に聞いてみました！

35年ぶりの大雪、除雪のため5時起きが続き大変だったと今月を振り返る小崎さん。

生産性向上への的確な提案を行い、実行する、弊社生産部改革のキーマンです。



ホームページにも来てね！ HPアドレス <https://showa-f.co.jp>